

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

① 目指す姿と数値目標

経営理念

公正な競争を通じて付加価値を創出し経済社会の発展を担うとともに、社会にとって有用な存在であり続ける

経常利益
100億円以上

EBITDA
220億円以上

ROE
5%以上

新電気炉生産量
120万トン/年

② 中長期の経営戦略

1. 電気炉投資と生産能力強化

日本製鉄との合併で新電気炉を建設。2030年度CO2排出量を2013年度比46%削減。自社鉄源比率向上でコスト競争力強化

3. 事業連携の強化

日本製鉄との業務提携推進。中部鋼鉄との提携に基づくスラブ供給・厚板委託継続。加工戦略強化

2. 電気炉鋼材の適用拡大

電気炉鋼比率を高め、製品開発によるラインアップ拡充。グリーン鋼材への取組も検討。CO2排出量が高炉鋼の約1/4

4. 加工戦略の推進

加工受委託・製品開発で付加価値向上。既設電気炉で月間5万トン体制構築し電気炉鋼拡販に注力

③ 対処すべき課題

① カーボンニュートラル対応

- ・ 電気炉鋼需要の拡大に対応し、CO2削減で競争優位性獲得
- ・ 2050年度カーボンニュートラル実現に向けた長期的取組継続
- ・ グリーン鋼材開発などの新分野拡張

② 経営環境の不確実性対応

- ・ 米国関税・保護貿易政策や中国製品安値流入への対応
- ・ 労務費・物流費上昇と人手不足への対策
- ・ 中小建築案件需要の回復見通しの立案

③ 新電気炉稼働の成功確保

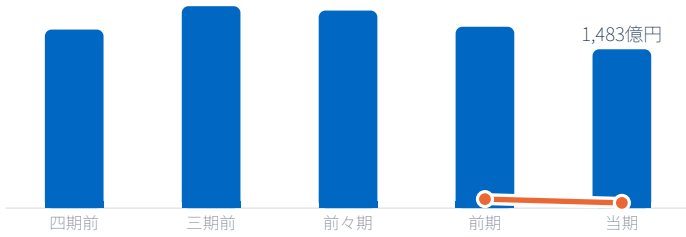
- ・ 鉄スクラップ調達課題への対応（岸壁活用・グループ海上輸送）
- ・ 構内物流整流化と熱延工場との連携最適化
- ・ 月間5万トン既設電気炉体制と新電気炉120万トン/年体制の統合

面接で使えるポイント

- ・ 2019年創業100周年から100年先の躍動を目指し、日本製鉄と新電気炉投資で産業構造変革に挑戦
- ・ 電気炉鋼のCO2排出量が高炉鋼の約1/4という環境優位性を活かした成長戦略
- ・ 2030年度経常利益100億円以上、2033年度130億円以上を目指す長期計画の推進

証券コード 5408

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

暗記する数字3つ

連結売上高
1,483億円営業利益率
3.3%財務健康度
60点 / 100点

将来性 曇り時々雨 / 就活偏差値 58.9（当サイト算出の参考指標）

平均年収
740万円

鉄鋼内 19位/38社

平均年齢
43.9歳

鉄鋼内 8位/38社

平均勤続
18.8年

鉄鋼内 11位/38社

女性管理職
4.0%

鉄鋼内 11位/32社

男性育休
90.4%

鉄鋼内 8位/32社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース十一言

要するに
株式会社中山製鋼所の事業概要

…

主力事業・セグメント

- 鉄鋼 98.2%
- エンジニアリング 1.1%
- 不動産 0.7%

強み・特徴（公開データから）

- 連結売上高1,483億円の事業規模
- 平均勤続18.8年と定着率が高い
- 東証プライム市場上場

※要約はAI生成のため誤りを含む可能性があります

